研究・調査報告書

報告書番号	担当
53	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Alcohol consumption and the risk of nasopharyngeal carcinoma: a systematic review.

飲酒量と鼻咽頭癌のリスク：体系的評価

執筆者

Chen L, Gallicchio L, Boyd-Lindsley K, Tao XG, Robinson KA, Lam TK, Herman JG, Caulfield LE, Guallar E, Alberg AJ.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Nutr Cancer. 2009;61(1):1-15.

キーワード

鼻咽頭癌（NPC）、ケース・コントロール研究、pooled odds ratio

要　旨

目的：

飲酒の鼻咽頭癌（NPC）リスクに対する影響を調べたエビデンスでは興深い結果が出ているが、一致した結果が出ないことがあり明快な解釈にかける。こうしたエビデンスを統一するために、我々は体系的な評価を行った。

方法：

World Cancer Research Fund（WCRF；世界癌研究基金）で作られた通信規約を使い、資金を調達し、飲酒量と鼻咽頭癌の関係を調べた 15 の書誌学的な疫学研究のデータベースを用いた。総飲酒量の最も多いカテゴリーの最も低いカテゴリーに対する pooled odds ratio（条件付き最尤推定による統合オッズ比）　を inverse-variance weighted random-effects model（逆変動に重みづけした無作為効果モデル）を用いて得た。用量―反応の傾向は、一般化最小二乗見積り法モデルに用いて調べた。 5 カ国の 14 のケース・コントロール研究を調査した。

結果：

11 の研究では総飲酒量に関しては、最も飲酒量の多いカテゴリと最も飲酒量の少ないカテゴリの比較で pooled odds ratio は 1.33(95%CI: =1.09-1.62)であった。

6 つの研究からは J-形の用量反応傾向が示された。1 週間当たり 15drink を（凹の）頂点とした NPC リスクの減少がみられ、それ以上の飲酒ではリスクは増加していた。

ビール、ワイン、蒸留酒摂取量と NPC との関係の評価に使えるデータはさらに少なかった。

結論：

潜在的に J 形をしている用量反応傾向は、軽度の飲酒により NPC リスクが減少することを示しているが、証明するにはさらなる研究が必要であろう。

全体を通して考えると、ケース・コントロール研究におけるエビデンスを量的にみてまとめると、重度の飲酒で NPC のリスクの増加と関連していることが示唆される。

J-6